

(再開 午前11時00分)

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

4番、山本隆樹議員。

(「はい、議長。4番。」の声あり)

(4番 山本隆樹 議員 登壇)

1. 調布市との更なる交流を

4番 山本隆樹 議員

では、通告に基づき2点質問いたします。

1点目、調布市との更なる交流をということです。

調布市姉妹都市盟約の40周年を迎え、記念式典が行われました。都市と農村交流、姉妹都市交流の先駆けとして育み、住民同士の活発な交流等、実績を上げています。デジタル田園都市国家構想が始動しており、各自治体でも都市と地方が相互に交流し、それぞれの資源やニーズを組み合わせることで、新たな価値や活力を生み出そうとしています。東京一極集中の是正や多極化を図り、地方に住みながら地方の社会課題に取り組み、地方から全国へとボトムアップ成長に繋がる構想です。都市の生活者のクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）の向上、また、安らぎに繋がります。時代は、ふるさと回帰、農ある暮らし、食・農の課題もあり、調布市の更なる取組が持続可能な村の村づくりに繋がります。そこで質問します。

今後の更なる交流に向けてのビジョンを伺いたい。

議長（勝山 正）

日基村長。

村長（日基正博）

村では、第7次総合振興計画の中で5つの基本目標を定め、「誇りと愛着を育み、一人ひとりが希望を持てる木島平～誰もが暮らしやすい持続可能な村～」を目指す将来像の実現に向けて取り組んでいくこととしております。

その中で「持続可能な村をともに創る」があり、その中で「姉妹都市調布市との交流促進」の施策があります。今年で姉妹都市交流40周年を迎え、更に交流を促進するため、互いにもっと身近に感じられるような事業を展開することとしております。

その取組として3つ掲げておりますが、1つ目は調布・木島平交流クラブ及び調布友の会の事業の推進、2つ目は姉妹都市職員の交流、3つ目は農産物のプロモーション強化となっております。そして、その目標指数では、令和10年度までに連携事業として年間10事業を行うことを目標として、取り組んで取り組むこととしております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

今ビジョンに向かって、地方ではデジタル田園都市国家構想交付金の申請で、いろんな取組をされています。この交付金を調布市と新しいワークモデルというのを作って、例えばサテライトオフィス等で関係人口を増やすような取組はできないかを伺います。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

今「交付金を活用して更なる交流を」というご意見をいただきました。

ご質問の中にもありましたように、そういった交付金のほかにも、例えば総務省ですとか、農林水産省の補助事業の中にもそういった関係人口、交流人口の拡大といった補助金や交付金もございますので、こういった事業を対象にしていくかも含めて、そういった有利な補助金、交付金を活用していくのも一つだと考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

では、2点目の質問で、村からの職員が派遣されています。日常の取組と更なる取組の方針は、どうされているのでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

「調布市に派遣している職員の取組」というご質問でございます。

派遣している職員の日常の取組につきましては、新鮮屋業務の中で、村、調布市の公立学校に提供している食材の確保、調整、また、店舗の統括、情報発信、それと併せて村と調布市のイベントや交流事業の現地機関との情報、また、イベントへの出展、役所との調整も行っております。

また、今後、新鮮屋の検討も含めて調布市現地調整役として取組をしていく予定でおります。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

今のアンテナショップ新鮮屋の運営とかイベントの段取りとか、そういう調整役みたいな形なんですけど、営業的な役割というのは今後どうなんでしょうか。これからの調布市との関連では、自然に親しむ、自然との仕組みを理解する等いろんな形で調布市民との間の営業活動を、村との関係を良くするための営業活動というのは、できる取組というのはあるのでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

今「派遣職員の営業の取組について」のご質問いただきました。

取り組んでいる状況については先ほど申し上げたとおりでございますけれども、村と調布市が交流するにあたって、受入れ側の事業についてはこちらの方で考えて企画、立案をしていきます。それと、調布市側の、例えば誰を対象に、どんなところをターゲットにして、どんなところにちょっと声をかけていくかというのは、やはり現地の職員の力が非常に大きいと思いますので、そういったことも連携をしながら、村の受入れ体制と現地の呼び掛けですとか、一つの営業になるかもしれませんけれど

も情報発信ということが一番大きな役割になろうかと考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

事例として前も話したことあるんですが、世田谷区と群馬県の川場村との間で同じように、姉妹都市の契約を結んで、結構川場村を利用した形で良い事例がいっぱいあるんです。その中に、世田谷区では、生活文化政策部区民健康村ふるさと交流推進課というのを、世田谷区の中で課を設けて更なる交流を進めているような、本当に見本になるようなところがあるんです。そういうところを考えると、木島平村の健康村の窓口を、なんというか、調布市の方に作れないかどうかというのは、依頼とか相談とかそういう形でできるんでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

川場村の事例を出されてご意見をいただきましたけれども、確かに調整役とすれば可能だとは思いますが、ただ、こちらの受入れ側としてそういった体制がしっかり組んでいませんと、そういった事業も手をつけられないと思いますので、現状、調布市と交流の中で、やっぱり行き来しているツアーですとか農業体験とかがございますので、そういったものを更に継続して発展できれば、将来的にはそういったことも可能かと思っております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

では、そういうことも繋げていきたいということで、3番目の質問に入ります。

市民が未来に繋ぐ食の環境を考えるため、子供里山自然学校、農業塾、里山塾のような取組ができないのか。今、観光振興局のテーマでもある「人づくり×里山」に繋がる交流ができないか伺います。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「調布市との交流を更に深めるため、食・農・環境をテーマとした子供里山自然学校や農業塾、里山塾の取組ができないか」とのご質問にお答えいたします。

本村では、市民農園を開設し、調布市の皆様を中心にご利用をいただいております。今年の利用実績は水田が6件、畑4件の計10件で、このうち調布市民のご利用は水田が6件、畑1件となっております。

水田では、田植え、草刈り、稲刈りを体験いただいております。原則として日帰りではなく、村内での宿泊を推奨し、観光体験メニューを組み合わせたプログラムをご案内して、より深い交流に繋がるよう努めております。こうした市民農園の取組が議員ご提案の里山自然学校や農業塾へと発展していくよう、今後も取り組んでまいりたいと考えております。

なお、市民農園につきましては、議会から「管理状況や事業効果を精査して今後のあり方を検討さ

りたい。」とのご意見をいただいておりますので、これらも踏まえて、より魅力ある運営体制の構築に努めてまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

先ほど言ったように、自然に親しむ、自然の仕組みを理解する、森林作業の必要性を学ぶというような、本当に市民農園の方が来られた後、そういう話し合いをしたり、塾を開いたりして交流関係を広めていければ、もっともっと調布市民との関係が広がっていくのではないかと考えております。

本当にそういう塾というか、学習のためにはちゃんとした農村交流館もあって、宿泊施設もあるわけなんです。そのための農村交流館の意味、文明とかいう形で農村をしっかりと発信していこうという形で、農村交流館というのがちゃんと存在している。そういうところの活用というのは、もう一度見直した方がいいんじゃないかな。調布市民との間で交流館をしっかりと学習塾に繋げていくような取組というのは、提案できないでしょうか。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

私からは、教育、子育ての面からお答えしたいと思います。

4月1日調布市の教育長が変わりました。今、ご提案あったような内容については、まだ話ができない段階ですので、ぜひこれからお会いして、教育長の考え、教育委員会の意向を伺って、具体的にできるところは具体的にしていくように考えていきたいと思っています。

以上です。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

今、木島平村観光振興局でも作成している「めぐる木島平」、村で生きる人たちとの対談の中で、その中で今回「水の流れを考える」ということで長坂さんが紹介されていました。

木島平の持っているものというのは、そういう形で「めぐる木島平 村で生きる」という人たちとの懇談とは、調布市市民の方と本当に村を理解してもらうためにも大きな一つの策だと思うんです。そういうところをしっかりと考えた交流を続けていっていただきたいということなんですが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

「村の資源を活用してもっと調布の方に」というご質問でございます。

現在も、調布の方に農業体験ですとか、カヤの平のブナの植樹などにも参加をさせていただいております。交流の担当は総務課と、調布市側では文化生涯学習課になりますので、担当課同士でどのような交流が可能なのか、また、調布市側でこういった団体ですとか、例えばこちらに新たにきていただ

けそうなのかなというところを検討して、具体的に更に追加できるのか、また、既存のものをどういった形で続けていくのか検討をしていきたいと考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

4番目の質問に入ります。

調布市の中学校のスキー移動教室はなくなってしまいました。調布市の一つの健康村として、年間を通して観光振興局のアクティビティを取り入れた企画等を進められないか、質問いたします。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

「年間を通じた交流事業の企画」についてご質問をいただきました。

村では、観光振興局を中心に、里山巡りや郷土食づくり体験、カヤの平高原リトリートツアー、スノーシューツアーなどを企画し、調布の皆様にもご利用、ご参加していただいております。また、調布市バスツアーにおいては、昨年度から新たにカヤの平高原のブナの森再生事業を取り入れ、ブナの植樹やそば打ち体験など村内観光をお楽しみいただける内容としております。

今後も観光振興局と連携し、調布市の皆様を始め、多くの皆様にご満足いただける体験メニューの充実に努めてまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

この前、協力隊との懇談の中で、アスリートの地域おこし協力隊の人たちがスキー、冬のスノーシューを使ったしみわたりとか、クロスカントリースキーで散歩したり、スノーシューで散歩したり、そういうアクティビティを取り入れた企画の実現を自分たちも協力したいというようなことで、ちょっと話し合ったことあるんです。特に木島平というのは、やはり冬の活用というのは大きな一つのテーマだと思います。その冬期間の有効な活用となると思うんですが、その辺の取組はいかがでしょうか。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

スノーシューツアー等の提案をいただきましたが、既にこちらは実践をしております。これをより広くPRして、冬の観光のアイテムの一つにしていきたいと思います。

スノーシューに限らず新たな試みも、先ほど申しあげましたカヤの平高原のリトリートツアーとか、癒しを求めて楽しみを作り出すような企画も考えておりますので、新たな取組を取り入れて、それを村の代表的な楽しみの一つにしていければと考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

調布市と更なる交流を進めて、本当に良い村づくりにしていければという思いを込めて質問いたしました。

2. 旧第一通学区の高校の存続は

4番 山本隆樹 議員

つぎに、2番目の質問に入らせていただきます。

旧第一通学区の高校の存続について質問いたします。

近年、飯山高校、下高井農林高校ともに定員割れが続いています。岳北地域にとって普通教育と専門教育という異なる学びの場として、2校を存続させることが重要な課題となっています。旧第一通学区の高校として、地域の良い形での存続が検討されているところです。

その中で質問いたします。

1番目、高校再編に関する基準等の見直しが検討され、改訂版がまとまりました。その経過を伺いたい。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

それでは、ご質問にありました「高校再編に関する基準の見直しが検討され、改訂版がまとまり、その経過」ということで、お答えいたします。

これまで岳北地域における高校教育のあり方について、県教育委員会に意見・要望を提出してきたことで、現在、下高井農林高校、飯山高校は「中山間地存立校」の位置づけになっております。

本年度、令和7年度ですが、第3次再編整備計画においても、再編基準の見直しを県教育委員会に要望・意見を申し立てまいりました。その結果、令和7年6月16日付で、令和8年度を初年度として適用する見直しが示されました。この見直しでは、岳北4市村がこれまで取り組んできたことが反映される結果となり、成果だと考えております。

基準の見直しの内容ですが、募集定員は120名のところを80名に変更、在校生徒数120人以下の状態が2年連続した場合には、再編対象とするということになりました。この基準を受けますと、現在、下高井農林高校の在籍生徒数は120人を上回っておりますので、当面、下高井農林高校が飯山高校の地域キャンパスにならなくても存続が可能となってきます。

11月20日には、県教育委員会と村長、それから私、教育長との懇談がありました。そこでも県教育委員会から「当面の間、現状の高校配置を維持する」という回答をいただいております。

今年度は、4月から岳北4市村の首長さん、教育長、下高井農林高校、飯山高校の校長先生たちが定期的に懇談会を行っています。その中で、高校の特色ある教育活動をいかに進めていくか、また、今後更に少子化が進む中で、魅力ある学校づくり、地域キャンパス化についても話し合っているところです。

以上です。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

今の基準前では、在籍生徒数が160人以下の状態が2年連続した場合は再編の対象になるということが、今の新基準では、在籍生徒数が120人ということで、160人から120人の状態が2年連続した場合には再編が進められると理解しました。

改定基準は令和8年ですから、来年から初年度として令和12年までの間適用ということで、その間に120人を2年連続割ったら再編の対象になっていくという理解でよろしいでしょうか。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

はい、そのとおりです。

詳しい説明が少し不足しましたが、改定前は在籍生徒数が120人以下の状態、もしくは在籍生徒数が160人以下の卒業生の半数という文言がありました。ところが削除されて、在籍生徒数が120人以下の状態という、そこだけが残りました。

以上です。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

では、2番目の下高井農林高校と地域が連携し、高校の魅力づくりに向けた取組を進めるという形で、今も説明ありました。直近では、農業振興公社がそば部応援プロジェクトを今年展開しました。その成果を伺いたい。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

下高井農林高校の特色ある学校づくりでは、「地域連携」「地域貢献」「地域交流」をキーワードにしています。「地域」という言葉が大変多く使われていることから、地域密着型の特色ある学校づくりを目指していることが伺えます。その中で、地域と深く繋がった学びで人材育成をしていく、将来の職業選択に役立つ技術・資格を取得していくための学校を目指していくということです。

今ご質問ありました、地域連携の一つとして、農業振興公社と連携したそば部の活動が現在とても充実しております。持続可能な取組として、また、下高井農林高校の特色ある活動として村民のみならず、県内外に下高井農林高校そば部の活動を発信していくことは、大変大きな成果であると考えています。

農業高校ですから、自校で「生産・加工・流通・販売」というふうには、農業経営を学ぶことが必須であるということをお県教育委員会に申しております。その際、そば部で売り上げた利益等が県教育委員会に納めるのではなくて、自校で商品開発や物品の購入に使えるように見直しをしてほしい、その旨を11月20日の県教育委員会との懇談会においても申入れをいたしました。

いずれにしても、下高井農林高校の地域連携、地域貢献、地域交流を教育委員会としても協力をしていきたい、支えていきたいと思っておりますので、ご理解お願いいたします。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

今、そば部の応援プロジェクトという形で大きな成果を上げていたり、いろいろ発信してくれています。

そのほかでも、直近では、先ほどジビエ料理も、それは近隣のマイスターが協力してくれて、ジビエ料理講習会が開かれました。そのときに、やはり熊等授かりものを大切に頂くという形で高校も取り組んでいます。

北信地域振興局農地整備のご指導のもと、地域の農業水利を学ぶという形で協力をいただいて、農業水利施設の役割、地域農業との関わりというような形で理解を深めています。また、今年の収穫祭では、収穫までの労をねぎらい、収穫を喜び、収穫に感謝、そして食べること、生きること、命を考えるというテーマで取り組んでいます。それで、講演では、関東農政局長野拠点の方から「未来へ繋ぐ食と環境」の題で講演をいただいております。

地域が連携して、高校の魅力を発信しています。農業を通じてこそその学び、人を育てる、農育こそが農業高校の魅力です。農林高校は木島平の魅力でもあります。中山間地域のあり方を共に学び、更なる発信をしてほしい。発信できないか、もう一度質問させていただきます。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

「更なる発展を」ということでお願いいたします。

令和5年度、令和6年度、令和7年度と下高井農林高校に通う旧第一通学区の生徒さん、旧第二通学区、第三通学区の充足率がとても下がっている状況です。現在、下高井農林高校が取り組む地域連携も含めて、魅力ある学校づくりが広く第一通学区の生徒さん、第二通学区の生徒さんの方に伝わっていくことが大事だと思っています。そういう意味では、いろんなメディアで取り上げられたり、発表会で発表したりという機会をどんどん設けていくことが必要かなと思います。

令和10年度には、旧第一通学区の生徒数が3年生が200を割っていきます。そういう中で、魅力ある学校づくりが、中学3年生の進路選択に選ばれるように努力をしていかななくてはならないと、そういうことを下高井農林高校の校長先生とも話し合っていますので、ご理解をいただきたいと思います。

議長（勝山 正）

以上で、山本隆樹議員の質問は終わります。

（終了 午前11時31分）

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は、午前11時40分とします。

（休憩 午前11時31分）